

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年9月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500059		
法人名	社会福祉法人 二十一世紀会		
事業所名	グループホーム 明の家	ユニット名	
所在地	〒319-3114 茨城県常陸大宮市野上1924-1		
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892500059-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月25日	評価機関 決 済 日	平成27年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな地域と家庭的な雰囲気の中、その人らしい生活ができるよう、季節を取り入れた環境作りをしている。また、利用者様の意向に添った外出支援や同法人他施設と日常的な交流ができるように、日中は玄関や門が開放され、自由に散歩することができる。法人全体が大きな家族として利用者様を迎え入れ、様々な症状の利用者同士が交流を深める機会をいつでももてるようにしている。地域に根ざしたグループホームとして、地域のボランティアの方を月一回お招きしたり、夏まつりをはじめ地域の行事などにも積極的に参加している。さらに、同法人では希望される利用者を募り、合同温泉旅行・海外旅行を実施している。これも利用者職員・利用者社会が交流し、触れ合える機会のひとつとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「障がい者が、高齢になってもそれまで過ごしてきた施設の近くで、地域の一員として暮らし続けることができる環境づくりをしたい」という思いを持つ代表者が設立した事業所である。
職員は代表者の思いを活かし、“認知症高齢者も障がい者であるとともに、家族の一員である”という考え方をもって利用者に接しており、利用者が不穏になった場合にもその背景を全職員で徹底的に話し合い、利用者本位の支援に努めている。
常に利用者の視点に立ち、「居酒屋パーティー」や「希望者を募っての海外旅行」など、工夫を凝らしたイベントを実施している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現場の職員で理念を考え作成・共有し実践につなげている。また、法人の理念を法人全体の朝礼で毎日唱和し、共有化している。	全職員で地域密着型サービスの意義について話し合い、「地域と共に」や「敬愛・支えあい・ふれあい・思いあい」などの文言が入った理念を掲げている。 事業所の朝礼で理念を唱和するとともに、事務室や玄関に理念を掲示している。 職員は、利用者に寄り添う時間をできるだけ確保するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大正琴演奏等のボランティアの方々の訪問が毎月ある。法人内の作業所手作りパンを提供し、交流をかさねるごとにつながりを深めている。利用者も楽しみにしている。	2ヶ月に1回、大正琴演奏の地域ボランティアを受け入れているほか、利用者は地域の祭りを見物する中で地域住民と交流している。 地域ぐるみで利用者の見守りをしてもらう体制の構築に向けて、地域住民に対して「利用者が一人で外出しているのを見かけたら、事業所に連絡してください」という依頼をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し、地域の方々と交流しながら認知症などの理解を得ている。運営推進会議メンバーの方々にも家族会等に参加頂いて、暮らしぶりや支援の仕方などの理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、市町村・地域包括センター代表者達と活動状況や防火安全体制等の取組み・改善課題を話し合い、サービスの向上に活かしている。	家族等の代表者や市職員、地域関係者、民生委員、地域ボランティアが出席する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、入居状況や行事結果、外部評価結果などを報告するとともに、認知症や地域防災に関する勉強会を実施している。 管理者は会議参加者から出た、「旬の食材を献立に加えたほうがよい」や「利用者が一人で外出した際には、まず地域パトロールをしている住民に連絡してはどうか」という意見を受けて運営に反映している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、事業所の考え方や実情を報告し、課題解決に向けて市町村との連携強化を図っている。	管理者は市に直接出向き、市担当者に事業所のケアに対する取り組みや、入居状況を伝えるとともに、ユニットの増設など、事業所のサービス体制拡充に向けた相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を十分に行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。安全面も考慮しつつ玄関や門の施錠はせず、利用者の自由な暮らしを継続している。	身体拘束をしないという方針やマニュアルを作成し、現場教育のほかに年1回の内部研修を実施している。 職員は地域住民や近隣の交番などに協力を求めながら、きめ細かな見守りにより、玄関施錠も含めて身体拘束をしないケアを実践している。 管理者は家族等に対し、身体拘束をしないという事業所の方針やそれに伴うリスクを説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で高齢者虐待がどのようなものか、どのような悪影響を及ぼすかを学び、マニュアル化・虐待・拘束などの未然防止に努めている。常に真心のこもったケアができる施設づくりにみんなで努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度など、資料等を見ながら話し合い、勉強会を実施している。誰もが理解し、日々活用できるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定等の際は、利用者本人とその家族に対し十分な説明を行い、十分な理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族などの意見をくみ上げるため、無記名のアンケートを実施し、そこから得た要望・意見を運営に反映させている。	利用者や家族等と話し合う際に、お茶を飲みながらの世間話など、リラックスした雰囲気づくりに努める中で、意見や要望を吸いあげている。 3ヶ月に1回嗜好や暮らし方の意向等に関する聞き取りや無記名アンケートを実施し、その結果を利用者や家族等に伝えるとともに、外出先や献立などの希望を踏まえて運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の申し送り等で、意見や提案を述べたり、聞いたりし、運営に反映させるよう努めている。働く意欲の向上やサービスのレベルアップ化にもつなげている。	管理者は月1回の職員会議や申し送り時に職員の意見を聞き、ゆっくり食事ができる場所の確保や内部研修の希望などに応えているほか、勤務シフトの変更要望に柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが、やる気や向上心を持って働ける職場の環境づくり・整備に努め、職員同士が協力し合い、真心をもって利用者のケア業務にあたるように心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・ミーティングの開催。事業所内外の研修も取り入れ、技術・知識向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同一法人内の施設と合同のイベントを通し、意見交換や介助・支援方法の違い、有効な実践事例の共有を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、本人の気持ちに向き合いながら、本人の気持ちを十分に受け入れ、傾聴し、信頼関係を築き上げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ち、本人と家族との思いの違い、家族の体験などを理解し、家族の声に傾聴し、信頼関係を築き上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の実情や要望をもとに何が必要か見極め、事業所としてできる限りの対応をしている。必要に応じて他のサービスの利用調整等も速やかに行っている。安心・納得しながら利用できるよう、十分に対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に向き合い・寄り添い、安心して生活して頂けるよう、その人らしくありのまま受け入れ・傾聴し、意向に添いながら時間をかけてケアに取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の絆を大切にし、施設や利用者様の様子などを密に連絡し合い、職員のご家族で利用者を支えていけるよう信頼関係を築き上げている。家族会や面会、お便り（明の家便り）等を通してつながりを保っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの来訪、帰宅・外出等の機会をもち、馴染みの人や場所との関係が途切れることがないように支援に努めている。また、他施設の利用者やボランティアなど、様々な人との関わりを大切にしている。	申し送り時や仕事の合間の話し合いを通して、利用者の顔馴染みの人や場所を職員で共有している。 友人や親戚に来訪を働きかけるとともに、家族等に対して利用者の馴染みの店での外食や買い物支援に同行してもらえよう連絡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支え合えるよう、散歩やレクリエーションを通し、孤立や利用者間のトラブルなどを防ぐように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後の相談や支援に応じる姿勢を示し、経過を見守ったり、支えられるよう信頼関係を築いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	嗜好調査等を実施し、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、利用者一人ひとりの希望・意向等の把握に努めている。出来る限り希望にそえるよう努めている。把握が困難な場合も本人本位の視点で職員が話し合っており取り組んでいる。	職員は思いや意向の把握が困難な場合も含め、利用者の言動を観察するとともに、その背景にある思いや意向について話し合う中で、「家族等に会いたい」や「お酒を飲みたい」、「好きな歌を歌いたい」などの思いや意向を把握し、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や職歴・病歴などを把握し、プライバシーに配慮しつつ、自分らしく暮らしている様な支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることは、本人のペースで行って頂き、できる喜びを味わえる支援を行っている。ADL低下がみられた利用者でも、食事自立摂取可、排泄はトイレ利用までの前向きな支援に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人や家族も含めて話し合い、作成している。そして、本人や家族の要望や変化に臨機応変に見直せるよう努めている。	介護支援専門員が利用者や家族等からの意向等を聴いて作成した介護計画案について、申し送り時やケース検討会で医療関係者からの意見を踏まえて話し合い、計画として確定している。 毎月のモニタリングや、3ヶ月から6ヶ月毎の評価結果に基づいて介護計画を見直すとともに、車いす利用者の「立って歩きたい」などの思いを実現するための具体的な目標を掲げている。 利用者の状態像に変化があった場合には、随時介護計画を見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ごとに日中・夜間の様子を個人ケースに細かく記入し、日常の些細なことや気づきなども全職員（必要に応じて全施設職員も）と情報を共有し、今後のケアの仕方や介護計画見直しを行っている。GH内での1日に2回の申し送り、施設全体での申し送り等で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設で日中を過ごしたい、他施設のお風呂に入りたい、〇〇を買いたい、など利用者様の声やご家族の声に耳を傾け、柔軟な支援を臨機応変に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが地域資源を最大限に活用できる施設づくりを配慮し、心身ともに健康でその人らしい安心・安全な生活ができるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人の希望や要望に寄り添いつつ、常に適切な医療が受けられる関係づくりに取り組んでいる。ご家族様への連絡も密に行っている。	職員は利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診に付き添っており、利用者の普段の状況やバイタルサイン測定結果を医師に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。 職員は電話や連絡ノートなどにより、受診結果を家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から健康管理に留意し、状態変化や異常があれば、迅速に看護職員に伝達・相談をし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。又、看護知識が得られるよう、内部研修にて法人内の看護師が講師となり、GH内の知識向上につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族等と相談しながら病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と話し合い、対応方針の共有を図っている。また、職員全員で話し合い、支援するよう努めている。	「重度化対応・看取り介護指針」を作成し、サービス利用契約時に家族等の同意を得ているが、事業所として“できることとできないこと”を指針に具体的に明記するまでに至っていない。 年1回法人の看護師を講師とした、ターミナルケア研修会を実施している。	事業所と家族等との意向がずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所として“できることとできないこと”を方針に追記するとともに、利用者や家族等の同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人ひとりの急変や事故発生に備え、手順表を作成し、内部研修等で看護師から学び、定期的に訓練を実施し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難訓練を月1回実施し、必ず反省会を実施する。問題点があれば注意していくよう努めている。また、同法人の他施設とも連携を取り、災害時の協力体制を図っている。また、GH独自の全職員が分かりやすいよう、手順表を作成している。	毎月の夜間想定を含む避難訓練や、年2回の消防設備点検を実施するとともに、火災発生時の対応手順を示した写真入りのマニュアルを作成している。 避難訓練結果の反省点を記した報告書を作成しているが、避難目標時間や完了時間を明記するまでに至っていない。 隣接する法人関連事業所と、災害時の協力体制を築いている。 災害に備えて食糧や飲料水、備品などをリストを作成して備蓄し、法人関連施設に保管して管理している。	避難訓練記録に避難完了時間を記すとともに、避難目標時間の設定や時間内での避難に関する課題を明確に記録し、解決策について話し合うことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄介助は勿論、日頃の利用者に対する言葉かけも十分に配慮するようにしている。プライバシーに関する勉強会も開催している。	排泄介助時にはドアを閉めるなどの配慮をしている。 法人全体として、「プライバシー保護について」や「接遇について」などの研修を年1回実施している。 個人情報に関する書類は、事務室内をカーテンで仕切り、その奥の手が届かない高い書棚に、目隠しをして職員以外には分からないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう、日常生活の中で、希望や願いを引き出せるような支援に努めている。また、意思表示が困難な利用者様には、本人のもつシグナルを見つけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、何がしたいのか希望を聞き、好きなときに自由に過ごして頂けるよう、他施設とも連携・協力を得て、利用者に満足感を味わって頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みに合ったメイクや髪染め、腕時計や洋服など外出時だけではなく、日常から「おしゃれ」をするという喜びをいつまでも味わっていただき、さらにそれを生きがいにつながるような支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好アンケート調査をし、毎日の食事が楽しみの一つとなるよう、個別に好みを確認したり、誕生会や日々のメニューに季節感ある食材を取り入れたり、赤飯・おこわ・餅などを提供し、喜んで頂いている。	調理師の免許を有する職員による、嗜好アンケート結果に基づいた献立に、自家菜園で収穫した旬の野菜などを加え、事業所の厨房で調理した食事を提供している。 赤飯やおこわなどの行事食を提供するほか、時々“居酒屋パーティー”を開催し、利用者と職員が一緒になってお酒やつまみ、雰囲気を楽しんでいる。 2ヶ月に1回程度、利用者の希望にそった外出を兼ねた外食ツアーのほか、天気のよい日には庭での食事を楽しんでいる。 利用者は職員の支援を得ながら、テーブル拭きや下膳など、食事の準備や片付けに携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を講師として迎え入れ、職員の知識向上に努め、好き嫌いのある利用者も満足して食べて頂くよう、工夫したり、摂取量・栄養バランス・水分量など一人ひとりに合わせ支援し、食事摂取状況・水分状況を記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、入れ歯洗浄等を行い、その人に合った、清潔保持に努めている。口腔ケアチェックを毎回行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表を随時記入し、各利用者の排泄リズムの把握に努めている。オムツ利用者はリハビリをかねてトイレでの排泄に切り替え、尿失禁はあるものの、職員のケア方向性一つでオムツ使用からオムツを外せるケアが可能になることを実感している。	全職員で「おむつを外そう」という排泄ケアの方向性を共有し、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握して排泄誘導に努めたところ「おむつを外せるようになった」などの成果を上げている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のために食物繊維を摂ったり、水分量に気遣い、楽しめる体操や個人が好きなきに自由に散歩などを行い、自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて、声かけ・会話をしながら、寛いだ雰囲気の中で安心して入浴できるように支援している。入浴介助しながら、肌の状況等のボディチェック等を行っている。	毎日、昼間の時間帯の入浴を基本としつつ、希望がある場合には夜間帯の入浴にも対応可能としている。 季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を実施するとともに、入浴の際に拘縮予防マッサージをしたり、一緒に歌を歌ったりして入浴が楽しみなものとなるよう支援をしている。 入浴を拒否する利用者に対しては、職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や毎日の暮らしの変化に目を向け、安心して安眠できるよう支援している。天気の良い日は十分に布団干しを行い、温かな布団で眠りにつくことができるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用、用法・用量などを看護師からアドバイスをいただきながら支援している。薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐために、服薬時の復唱、服薬チェック記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を聞き、それぞれにあった役割をもてるよう個別に対応している。利用者が他施設で話したり、食事をしたり、自由な時間を寛いで過ごして頂けるよう、本人の好きな時、自由に散歩を行うなど、利用者本位のケアを実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出や年に数回の施設合同旅行（国内・海外）、地域内のイベントなどに積極的に参加し、さまざまな人たちとの交流をすると共に、利用者様の意欲向上や気分転換につなげている。また、アンケートなどで利用者様の要望を聞き、一人ひとりの希望にそえることができるような支援を配慮している。	利用者は職員と一緒に事業所周辺の散歩など、日常的に外出している。 利用者は年間外出計画にそって、温泉やカラオケ、植物園、地域の祭りなどへの外出のほか、希望者を募った海外旅行を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベント（祭りなど）や外出レクでは、職員が見守り、個人の能力に合わせて、欲しい物を自ら選択し、自分自身のお金を自由に使える喜びを実感して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の声に常に耳を傾け、「家族の声を聞きたい」「手紙を出したい」など希望があれば、利用者に満足を得られるような対応を行う。また、ご家族等に年賀状など季節のお便りや写真などをお送りして、利用者様のさまざまな暮らしぶりをお知らせしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の花壇等で育てた花を飾ったり、廊下の壁にイベントや外出レクの思い出写真や利用者様の作品を置いて、どなたでも心地よくリラックスした気持ちで過ごせるよう日々配慮している。	居間や食堂、ベランダは日当たりが良く、廊下に飾った季節の花々や利用者の手作り作品のほか、“昭和の写真・歌手展”と称して模造紙に昔の歌手の写真を貼って壁に飾るなどの工夫とあいまって、家庭的で温かみのある共用空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダで園芸・日向ぼっこをしながら談話を楽しんだり、思い思いにゆったりとくつろぎながら穏やかに過ごせる共用空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人と家族・職員が、花や絵を飾ったり、テレビをゆっくり鑑賞できる空間をつくったり、なじみのものを使用し、本人なりに居心地のよい、落ち着いた環境で生活できるようにしている。	利用者は家族等や職員と相談しながら、自宅で使い慣れた筆筒や小物入れ、テレビ、衣装ハンガー、愛読書などを持ち込み、自分好みの居室づくりをしている。 ベランダに面した居室は掃き出し窓となっており、利用者は広々としたベランダで、自然を感じながら外気浴ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの利用者も日常生活の関わりの中で、本人のできること・わかることを見極め、本人のできる力を活かして、ADL・意欲向上につながるよう、安全・安心できめ細やかなケアを実施している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム明の家

作成日 平成27年9月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の終了時間を明記	担当者が必ず明記する事	記入漏れがない様担当者がチェックする	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。